

関係団体の意見と対応

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量及び拡散状況の把握に今後も努めて欲しい。また、水深の深い地点の調査（底質も含む）についても継続して実施して欲しい。</p>	<p>① 排砂及び洪水中の正確な土砂量の把握は、現在の測定技術では困難な状況にあるが、土砂動態の把握のため、排砂シミュレーションの精度向上に努めるとともに、平成16年以降、新たに排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施しており、また平成18年度からは、新たに連携排砂実施期間終了後の9月に貯水池測量を実施している。</p> <p>この他、出・洪水時、排砂・通砂時の流砂量観測や、黒部川河口より海へと流出した土砂量および土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂・通砂実施時のヘリによる空撮、海域での採水調査等を実施し、土砂動態の把握精度の向上に努めているところである。</p> <p>また、底質調査については、来年度も継続して調査を行う予定にしている。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には、試験通砂を実施し、その検証結果を踏まえ、通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p>	<p>② 試験通砂については、通砂基準を引き下げて通砂を実施することにより、翌年の目標排砂量を低減させ、下流河川及び海域への環境負荷を軽減出来ないものかを検討するために、平成18年度から連携排砂計画に組み入れた。</p> <p>平成21年1月19日に開催された第30回黒部川ダム排砂評価委員会においても、今後の留意点として、「近年の短時間集中豪雨等の出水の特徴を踏まえ、実施方法について引き続き検討を進めるとともに、より効果的な通砂方法についても検討を進めること」との意見が出されたことから、来年度以降は、短時間集中豪雨に対応した通砂方法について検討を進めるとともに、引き続き試験通砂を実施し、その効果について検証したいと考えており、その結果を見ながら、ダムの機能維持や排砂による下流河川及び海域の環境への影響の最小化を視野に入れた連携排砂及び連携通砂の方法について、検討して参りたい。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>③ 猫又付近の土砂堆積対策については、土砂搬出の具体的方策を検討して欲しい。</p>	<p>③ 出し平ダム貯水池上流の猫又地点にある発電所放水口が出洪水により、土砂で埋まるため、発電機能の維持のため機械掘削を行っている。</p> <p>土砂掘削時においては、土砂を取り除く前に、当該エリアへの流水を遮断するための仮締切りが必要である。従来はこれを周辺の掘削土石により行っていたが、平成19年度より、仮締切り工事において大きな濁りが予想される箇所については、土のうを使用することにより濁りの発生を抑制し、より環境への影響を小さくするよう努めているところである。</p> <p>今後とも、堆積土砂処理については、環境への影響を小さくするような方法を検討して参りたい。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 単年度毎の事後評価を行っておられ、毎回、「一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。」と括っておられるが、平成3年の初回排砂から17年の歳月を有しており、また、河川法の改正から10ヶ年が経過しようとしている。長いスパンにおいて河床環境の変化の検証、或いは、宇奈月ダムから河口までの堆積土砂の収支、粒度粒径分布の変化と総合土砂管理のあり方をきちんと議論すべく会議や現地調査を行う必要があると思いが。</p>	<p>① 連携排砂については、黒部川ダム排砂評価委員会において「一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。」との評価を頂いている。しかしながら、これまで河床環境を含めた環境調査の見直し・改善に関するご指摘もあることから、その都度その見直し・改善に努めてきたところであり、土砂量の把握、排砂・通砂方法の検討及び長期的な視野に立った環境調査について、排砂評価委員会の指導をいただくとともに関係機関等のご意見も伺いながら検討して参りたい。</p> <p>また、黒部川の水系一貫の管理の観点から総合土砂管理は重要な事項であり、経年的な河床環境の変化、宇奈月ダムから河口までの土砂収支、粒度粒径分布の変化等、現地調査によるデータの収集・分析に努め、関係団体及び関係機関の理解を得ながら、排砂を実施して参りたい。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>② 今回の第30回黒部川ダム排砂評価委員会で委員から、特に魚族に関して「調査の目的をもう少しはっきりさせて、それに向かった評価の方法というのもやっていく必要があると思う。」との意見があった。今後、調査項目について事前に内水面漁協と協議されたい。</p>	<p>② 環境調査計画については、黒部川ダム排砂評価委員会及び黒部川土砂管理協議会の方々の意見や関係団体の方々の意見を受け、これまで調査を実施してきたところである。</p> <p>また、当年度に実施した連携排砂時のデータを毎年1月に行われる黒部川ダム排砂評価委員会で排砂による環境への影響がどうかを評価して頂き、さらに黒部川土砂管理協議会においてご意見を頂きながら、必要に応じて項目の見直しを行っている。</p> <p>これらの経過を踏まえ、来年度以降についても、環境調査計画作成にあたっては、関係機関及び関係団体に事前説明し、ご意見を頂いた上で、黒部川ダム排砂評価委員会及び黒部川土砂管理協議会でご了承頂きたいと考えている。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>① 連携排砂の実施期間は6月から8月までとなっており、この期間は灌漑期（4月から9月）の中で、最も水の必要な期間であるため、取水停止時間の短縮に向けた、一層の努力をしてほしい。</p>	<p>① 排砂・通砂は、一定規模以上の出洪水発生時に貯水池内に堆積している土砂及び出・洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めずに排出・通過させるものであり、出・洪水の末期にあわせて実施している。</p> <p>今年度においても、昨年度と同様、自然流下時間を12時間以内として、出・洪水の流況に応じて適切な自然流下時間となるよう臨機に対応している。ちなみに今年度は、自然流下時間を出し平ダム、宇奈月ダムともに8時間として取水停止時間の短縮を図った。</p> <p>なお、今回の連携排砂は、洪水調節もなく、標準的な排砂であった。</p> <p>また、愛本合口堰堤では、出・洪水に伴って取水停止となっているが、排砂作業による影響がすべてではないことをご理解頂きたい。</p> <p>今後も、取水停止時間の短縮については、引き続き努力して参りたい。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>② 連携排砂・通砂については、下流域の天候等を十分に考慮し、その時の状況に合わせて、臨機に対応していただけるよう、関係箇所と協議してほしい。</p>	<p>② これまでも農業用水の取水停止時間を出るだけ短くするために、平成17年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる7月15日から31日の期間に排砂を実施する場合は、夜間においても河川の濁り状況で取水再開を判断できるように基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を実施している。</p>

【平成20年度連携排砂の実施結果について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>③ 農業関係者の中には、排砂・通砂に対する認識が少ない方々がいることから、排砂・通砂実施時の住民に対する周知を強化してほしい。</p>	<p>③ これまでも排砂期間前、連携排砂実施中、黒部川ダム排砂評価委員会および黒部川土砂管理協議会開催時等機会あるごとに記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。</p> <p>また、平成17年度からは、連携排砂実施中に、みら一れテレビ行政チャンネル（入善町、朝日町）上にテロップで愛本合口堰堤の取水状況について広報しており、これまでも、よりわかりやすい表示内容の改善に努めてきたところである。加えて、広報車による地域広報も実施していただいている。</p> <p>さらに、平成20年度からは、市町広報誌への折り込みも実施している。</p> <p>今後とも、連携排砂、通砂と取水停止期間の考え方等についてご理解いただけるよう関係機関等とも連携しながら、より効果的な広報の実施に努めて参りたい。</p>